

この子らと

令和4年6月

命輝く子ども



体育教室

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

「命輝く子どもの育ちを」

たった、一度きりの人生、子どもたち一人一人の命を輝かせあげたいと本園の職員は、日々思いを馳せております。



山本有三小説「路傍の石」の作中に『たったひとりしかない自分を、たった一度しかない人生を、本当に生かさなかつたら、人間生まれてきたかいがないじゃないか』とあります。

子どもたち一人一人は、必ず可能性という小さな種子を無数に持っています。その可能性という種子を花咲かせることがわたしたちの果たすべき役割だと思っております。

子どもたちの命を輝かせるために、可能性という種子を花咲かせるために、保護者の皆様は、子どもたちの命を本園に預けてくださったと思っております。



心のスイッチ(可能性)

人間の目は、不思議な目。見ようという心がなかったら、見えても見えない。

人間の耳は、不思議な耳。聞こうという心がなかったら、聞いていても聞こえない。

頭もそうだ。はじめからよい頭と悪い頭の区別があるのではない。「よし、やるぞ!」という心のスイッチが入ると、頭もすばらしい働きを始める。心のスイッチが人間をつまらなくもし、すばらしいものにしていく。

失敗は、わたしに、わたしの一番いけないところを教えに来てくれた、大切なお使い。

やってみたらできた! あのことでもできた! このこともできた!

できないのではなく、しなかったのだ。やればできるのだ。

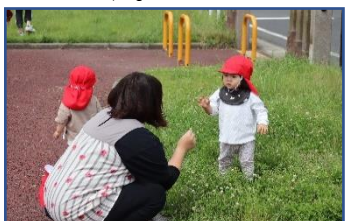
(東井 義雄)

“遊びの中に「学び」がある。”

人間どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気もちで日々をおくればいいのか、本当に知っていなければならぬことを、わたしは残らず保育園で教わった。人生の知恵は、大学院という山のとっぺんにあるのではなく保育園の砂場に埋まっていたのである。ロバート・フルガム(米国・哲学者)



「遊び」にも自由遊びと意図的・計画的に教師が設定する遊びがあります。本園では、主体的で対話的な遊びを通して小学校教育へつながる学びの基礎を培っています。



体育教室

幼児期において、遊びを中心とした身体活動を行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも影響するなどとても大切な活動です。本園では、専門の指導者を招聘して子どもの健康づくりを毎週一回程度行っています。



「健康は、最も素晴らしい贈り物です。」